

アドバイザー派遣事業実施レポート

平成27年11月2日

鳥取県クラス会議研究会 木村京子

1 団体 鳥取県クラス会議研究会

2 実施日及び場所

平成27年6月22日美保小学校・23日富桑小学校

平成27年10月5日(月)羽合小学校・6日(火)美保小学校

3 講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二 氏

4 内容

赤坂先生指導内容

I 『効果をあげる教師のリーダーシップ』

(1) 研修の目的

研修する目的は、変わること（アクションを起こすこと）である。今日の研修後、各自が、教育効果をあげるには何をしたらよいかつかむことが大切である。

(2) 交流型学習

- ・必要な理由 世の中の多様化 人口減少の時代 閉塞感の打破 幸福感の向上
かかわる力・つながる力をはぐくむため
- ・交流学習の効果として、不登校・いじめの減少
- ・交流学習で何を育てるか。集団づくり（安心・安全・あたたかい雰囲気）
- ・荒れた学級ではかかわれない。かかわることで、学習効果が下がる。

(3) 集団としての教育力

- ・教育力のある学級は、教育効果が高い。育て合う力を持つ。

(4) より教育力をもつのは、協同的集団＝チーム

- ・力のない子どもの力をどう引き出すかが意識されている。
- ・みんなで助け合うのは、すばらしいという文化をつくる。

(5) 集団の課題解決能力を育てる。

- ・交流型学習・学級会・日常指導を通し育てる。
- ・日常指導の中で、子どもの関心を「個」から「公」に向ける。
「公」への貢献 みんなのために働くことはよいという文化をつくる。
「掃除」・・・気持ちいい。人に貢献できる。気持ちが高まる。

(6) 成果をあげている集団

- ・自問清掃に取り組んでいる事例

II 『認め合い助け合うクラスの実現のために』 ～クラス会議の効果的運用～

(1) カリキュラム全体で育てる

- ・クラス会議だけでなく、授業の時間においても仲間同士が、学び合うことができれば、児童はより多く、より深く学べる。
- ・クラス会議と教科指導のメッセージをそろえる。

- ・クラス会議と協同学習の連携で、より効果的に満足型学級をつくることができる。
- ・クラス会議や協同学習は、能力を育てる道具。ただ実践すれば子どもたちが育つわけではない。
- ・協同の効果－「関わってよかった」の実感。知っている学力から作り出す学力へ。
- ・適切な行動をするクラスにするためには、満足度を高めることを通して身につける能力がある。それが「つながる能力」

(2) 「つながる能力」の育成

- ・つながる能力とは、知識を他者支援や問題解決のためにどう活用したらよいか思考し、実践する力（21世紀能力、コンピテンシー）
- ・「よい行動」は高い適応感から生まれる。よい行動をする能力を高めるためには、満足感の向上が必要。
- ・共同体感覚。協力的な生き方を学ぶ。

(3) 伝えること

- ① 私たちは対等である。
 - ・物事は交代です
 - ・全員が大切にされる
- ② 課題解決のために全員で協力しよう。
 - ・自分のできることを考える
 - ・決まったことに協力する
- ③ 肯定的感情を出し合おう。
 - ・みんなで話しやすい雰囲気をつくる － 前向き・安心・楽しさ・あたたかさ
- ④ 安心した生活には互いへの尊敬の気持ちが必要。
 - ・聞いていることを態度で示す（傾聴）
 - ・相手の感情に配慮した言い方をする（アサーション）
- ⑤話し合う目的は、責めることなく、問題を解決すること。
- ⑥自分たちで決めたことは、自分たちで守る。
- ⑦物事には多様な見方がある。
 - ・人はそれぞれ異なる見方考え方を持っている
 - ・問題解決には、物事の長所と短所、両面からとらえる
 - ・物事の長所に注目する、互いの強みを生かして生活する
- ⑧嫌な思いをさせても、人はやる気にならない、よい行動をしない。
 - ・人がやる気になる時は、よい感情を味わったとき。

(4) 大切なこと

- ①注目すべきは、話合いによって変わること。
 - ・話合いにばかり注目が集まるが、最も大切なことは実践である。
- ②任せる・見守る
 - ・成功を喜ぶ。 ・失敗を励ます。
 - ・適切な行動を「見える化」する（自ら動いた・動こうとした・少しでも伸びた）
 - ・成果に関心を払い、責任を持つ

Ⅲ『児童と学級の見取り方・評価の在り方』

学級崩壊が顕性化してきたのは2000年の頃と言われる。それまでの子どもたちは、教師の言うことを素直に聞き、特に問題も無く、「よい授業をすればよい学級ができる」という法則が成り立っていた。しかし、現在はそれだけでは学級が成り立たなくなっている。だからこそ、学級経営をいかにおこなうべきかが問われている。

(1) 学級経営の必要性

- ・今の教育に求められているもの

アクティブ・ラーニング→学習者の能動的な学習への働きかけから学ぶこと

問題解決学習、体験学習、調査学習、グループディスカッション、
ディベート、グループワークなど

- ・アクティブ・ラーニングが成り立つためには

学力の3要素（「基礎的な知識および技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な態度」）の中でも、「主体的な態度」、つまり「やる気」が大事になる。

- ・「やる気」を出させるためには

教師の個人的働きかけだけでなく、コミュニティーがどうあるかが問われる。周囲の励ましや温かさのある学級作りが必要→「学級経営」の課題

(2) 学級経営とは

学級担任が学習指導や生徒指導において教育機能を十分に発揮させるために様々な条件整備をすること

(3) 学級経営を評価するとは

学級の在り方を定期的に点検すること

点検するためには理想のゴール図が必要

いつするか→4月のスタート段階、6月、10月、1月のおわり、(およそ2ヶ月のパンで)

どのように評価するか→同じ評価指標で評価し、恒常的な変容を狙う。

(4) 理想の集団の4条件

- ・集団内に規律、共有された行動様式がある。〈ルール確立〉
- ・集団内に、児童生徒同士の良い人間関係、役割交流だけでなく感情交流も含まれた内面的なかかわりを含む親和的な人間関係がある。〈リレーション確立〉
- ・一人ひとりに児童生徒に、学習や学級活動に意欲的に取り組もうとする意欲と行動する習慣があり、同時に児童生徒同士で学ぶ姿勢と行動する習慣がある。
- ・集団内に、児童生徒のなかから自主的に行動しようとする意欲、行動するためのシステムがある。

※この4条件も含めた「集団づくり力アップのための20ポイントチェック」を参考に学級経営を評価してみる。

(5) 学級集団づくりの3つの軸

- ・教師と子どもの信頼関係
 - ・子ども同士の信頼関係
 - ・協同的課題解決力
- } 自尊感情
(できた、わかった、つながったに支えられている。)

(6) 学級経営の評価の核

- ・先生と子どもが個人的信頼関係を作る。
- ・授業のパフォーマンスは子ども同士の人間関係と深く関わっており、子ども同士の人間関係は教師と子どもの個人的信頼関係に大きなファクターがある。一人ひとりの子どもと共通の話題がどれくらいあるかを振り返り評価してみる。

(7) 子どもとのかかわり方

- ・子どもへの要求を恐れることなく、具体的に、子どもが理解して動けるように要求していく。
- ・ルールは明文化し、叱るよりもルールを守った子どもを褒めることで徹底させる。笑顔で譲らない姿勢が大事。
- ・「精神対話士に学ぶ」の資料を参考にして、信頼関係を作っていく。

(8) 今後の学級評価

- ・Q-Uなどの客観的指標と教師の主観的指標のバッテリーで評価
- ・学校として共通の取り組みをしていくこと
- ・小中連携の視点を持って義務教育9年間の学び方をそろえるとともに、社会性発達育成の指標を作ること

IV 『学級集団を育てる教師のリーダーシップ』

(1) 研究授業から

- ・1年児童のやる気がみなぎっていた。
- ・やる気を起こすには、雰囲気が大切である。
- ・雰囲気をつくるのは、教師である。教師の声のトーン・表情・テンポ
- ・1年生の時には、しっかり一斉指導しながら、ルールを教えていく。

(2) 子どものやる気

- ・ニーズが満たされたとき
- ・子どものやりたいことが実現したとき 自己実現
- ・児童は、尊重されると学ぶ。

(3) 教育効果は「教職組織の力」

- ・よいプログラム（授業）を持ってきても、機能していない学級には効果なし
- ・「いい学校」に「落ち込んだクラス」はない。
- ・よい学級環境（経営理論・方法論・指導力）は、よい学校環境（教員組織の質とシステム）から生まれる。
- ・建設的な教員組織をつくる。
- ・効果的な学級経営理論・方法論を持ち、それを経営方針に組み込む。

- ・リーダーシップのレパトリーをもち、集団指導する。
- ・学校では、安全安心の確保をする。愛と所属
- ・うまくいっている学校—あたり前のことを徹底させている。
- ・みんなで輝く「天の川先生」へ転換していく。

(4) 集団の発達段階と集団づくりの評価

第1段階 混沌・緊張期

第2段階 小集団成立

第3段階 中集団成立

第4段階 全体集団成立

第5段階 自治的集団成立

前期に何ができ、何ができていなかったのか。後期に取組みたいことは何か。

(5) 集団の必要条件と十分条件

【必要条件】①ルールの確立・・・安心・安全のため

集団内に規律、共有された行動様式がある。

3種類のルール(禁止ルール 促進ルール 承認ルール)

暗黙ルールは減らす。ルールを明文化する。シールを貼るなど

②リレーションの確立・・・良好な人間関係 あったかさ

いいこと見つけなど

【十分条件】①学び合う意欲と習慣

②自主的に行動するシステム 決定権を子どもたちにゆだねる。

5 まとめ

○クラス会議の日々の取組を学級活動・教科指導に活かした研究において、学級経営の向上、さらには教科学習の充実をめざして、それぞれの実践に向かう契機をいただいた。

○研究会のメンバーをはじめ、自主参加者を交えての研修により、多くの者が学び合い、各自の実践に活かす研修となった。

○学級集団づくりの理論を学ぶことにより、いっそうルールとリレーションづくりに励み、安心安全な集団づくりに教職員がチームとなり取組むという方向を改めて確認し、よりいっそう励もうとする気持ちを高めることとなった。